

適用と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	ホラムスルフロンを含む農薬の総使用回数
			薬量	希釈水量			
日本芝	一年生雑草 多年生広葉雑草	春夏期芝生育期 (雑草発生初期～生育期)	200~250 mL/10a	100~200 L/10a	3回以内	雑草茎葉 散布	3回以内
		秋冬期芝生育期 (雑草発生初期～生育期)	150~250 mL/10a				
	スズメノヒエ類 チガヤ	芝生育期 (雑草生育期)	200~300 mL/10a				
西洋芝 (バーミュダグラス)	一年生雑草 多年生広葉雑草	春夏期芝生育期 (雑草発生初期～生育期)	200~250 mL/10a	100~200 L/10a	3回以内	雑草茎葉 散布	3回以内
		秋冬期芝生育期 (雑草発生初期～生育期)	150~250 mL/10a				

有効成分と性状

種類	ホラムスルフロン水和剤
有効成分および含有量	ホラムスルフロン・・・2.2% 1-(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イル)-3-[2-(ジメチルカルバモイル)-5-ホルムアミドフェニルホルホル]尿素
性状	淡黄色水和性粘稠懸濁液体
荷姿	1L×6本
消防法	危険物 第4類 第3石油類

人畜・魚介類に対する安全性(製剤)

人畜毒性	経口	ラット(♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	経皮	ラット(♂♀)	LD ₅₀ >2,000mg/kg
	皮膚刺激性		軽度刺激性あり
	眼刺激性		軽度刺激性あり
水産動植物に対する影響	コイ		LC ₅₀ 26.8mg/L 96hr
	オオミジンコ(急性遊泳阻害)		EC ₅₀ 148mg/L 48hr
	藻類生長阻害(緑藻)		ErC ₅₀ 8.95mg/L 0-72hr

効果・薬害等の注意事項

- 使用前に容器をよく振ってください。
- 雑草茎葉にかかるよう散布してください。
- 一年生イネ科雑草を対象とする場合には、その生育期(6葉期まで)に有効なので、時期を失しないように均一に散布してください。
- 寒地型西洋芝(ベントグラス、ブルーグラス、ライグラス)では薬害を生じるので飛散しないよう注意して散布してください。特に、寒地型西洋芝を使用しているグリーンやティーグラウンド周辺では使用しないでください。
- 本剤の使用により、日本芝に黄変などが生じることがありますが、1~2週間で回復し、その後生育には影響を与えません。
- その日の天候に留意し、降雨が予想される時には使用を避けてください。
- 散布に用いた機具類は、使用後できるだけ早く水で十分洗浄し、他の用途に使用する場合は薬害の原因にならないよう注意してください。
- 使用量、使用時期、使用方法を守り、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないよう注意してください。誤って飲み込んだ場合は吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。
- 眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗いしてください。
- 皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布時は手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用し、作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 公園等で使用する場合、散布区域に縄囲いや立て札をたて、散布中および散布後(最小限その当日)に関係者以外は立ち入らせないようにしてください。小児、人畜等に留意してください。
- 火災時は適切な保護具を着用し、消火剤等で消火を行ってください。
- 漏出時は保護具を着用し、布・砂等に吸収させ回収してください。
- 移送取り扱いは、いねいに行ってください。
- 飲みません。
- 有効年月内に使用してください。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取扱い及び作業をしないでください。

貯蔵上の注意事項

- 密栓し、火気や直射日光を避け、食品と区別して、冷涼な場所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載内容以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届くところには置かないでください。

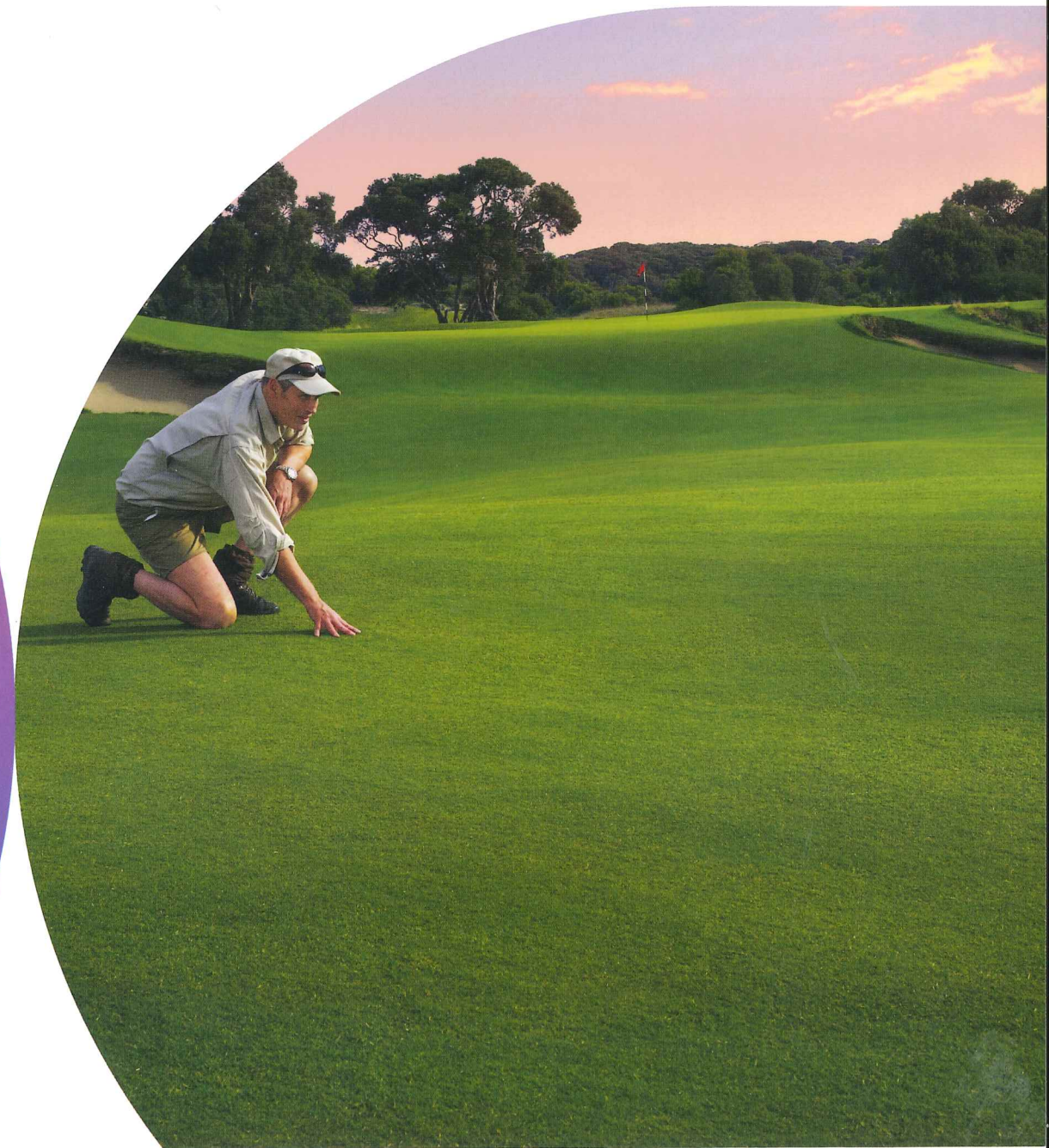


除草剤 芝用



スズメノカタビラにピリオド
スズメノヒエ類、チガヤにも登録拡大

登録商標 第5205010号



しつこいイネ科雑草を一掃



- 低温期処理、株化(分けつ)したスズメノカタビラにも安定した効果を発揮し、補正散布の手間、コストの削減に大きく貢献します

殺草スペクトラム

科名	和名	薬量 (mL/m ²)			科名	和名	薬量 (mL/m ²)		
		0.15	0.20	0.25			0.15	0.20	0.25
イネ科	メヒシバ	○	◎	●	ナデシコ科	ハコベ	●	●	●
	スズメノカタビラ	●	●	●		オランダミミナグサ	●	●	●
	エノコログサ	◎	●	●		ツメクサ	○	○	◎
	チガヤ	—	○	○	ゴマハグサ科	タチヌノフグリ	△	○	○
	シマスズメノヒエ	—	○	◎	トウダイグサ科	コニシキソウ	△	○	○
キク科	ヒメムカシヨモギ	○	○	◎	シソ科	ホトケノザ	●	●	●
	ウラジロチチコグサ	○	○	◎	マメ科	シロツメクサ	○	◎	◎
	マメカミツレ	△	○	○	セリ科	チドメグサ	◎	◎	●
	セイヨウタンポポ	△	○	○	カタバミ科	カタバミ	△	○	○
アブラナ科	ナズナ	○	◎	◎					
	タネツケバナ	◎	●	●					

平成19,20年度日権調委託試験および社内試験より

●(完全枯殺) ◎(効果大) ○(効果中) △(効果不十分) ×(効果なし)

日本芝に対する安全性

	処理日	調査日	薬量 (mL/m ²)	
			0.25	0.5
コウライシバ	茨城県 2009 4/13	2009 5/18	無	無
	埼玉県 2008 10/9	2008 10/25	無	微
	福岡県 2008 10/31	2008 11/15	無	無
ノシバ	埼玉県 2008 4/12	2008 8/16	無	無
	福島県 2008 10/16	2008 11/10	無	無
	福岡県 2008 10/31	2008 11/15	無	無

表示方法: 薬害程度を大、中、小、微、無で表示

コウライシバおよびノシバに対して登録最高薬量(0.25mL/m²)では、いずれの散布時期においても薬害は見られません。登録最高薬量の2倍量では、10月散布により一時的な黄変が見られる例がありました。試験を解析すると、散布日前後に最高気温が25℃以上まで上昇していることがわかりました。



最高気温が25℃以上となる日(前後)の散布は一時的に日本芝に黄変などが生じる場合があります

スズメノカタビラに対する除草効果



試験場所: 関東Aゴルフ場
対象雑草: スズメノカタビラ (出穂期)
プロット: 1m²
散布日: 2011年3月9日
調査日: 2011年4月22日

トリビュートOD



春期の大型スズメノカタビラを防除

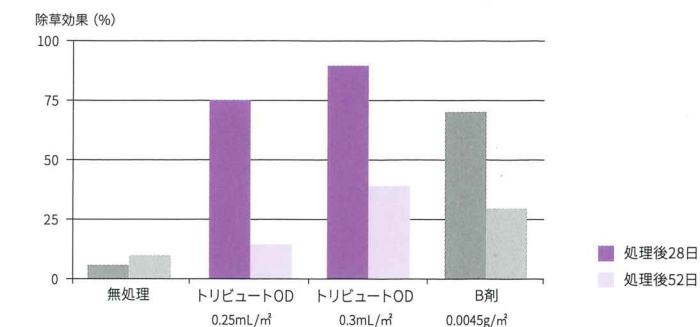
対照SU剤



社内試験

シマスズメノヒエに対する効果 (6月処理)

試験場所: 関東Aゴルフ場
芝種: コウライシバ
対象雑草: シマスズメノヒエ (草丈: 20cm、株直径10~15cm)
プロット: 1m²
処理日: 2013年6月3日
散布水量: 100mL/m² (サーファクタント2000倍加用)



除草効果: 100% (完全枯死)~0%(効果無し)

- トリビュートは対照B剤より高い効果が見られました
- トリビュートは薬量0.3mL/m²で、より安定した効果が認められ、持続期間は約1ヶ月でした

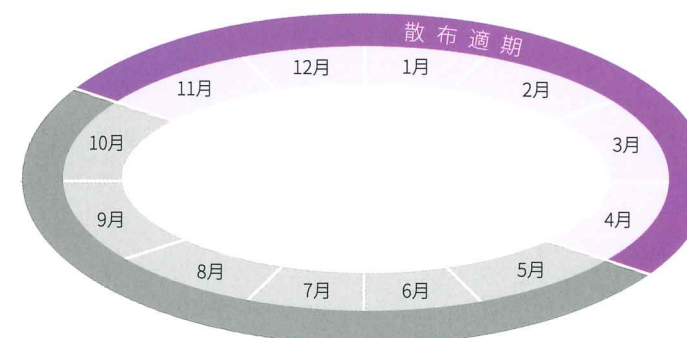
シマスズメノヒエに対する効果 (秋から翌年の体系処理)

試験場所: 関東Aゴルフ場
芝種: コウライシバ
プロット: 1m²
処理日: 2013年9月12日、2014年6月26日
調査日: 2014年6月26日 (1回目処理後287日)、8月27日 (2回目処理後62日)
散布水量: 100mL/m² (サーファクタント2000倍加用)



- トリビュート単剤の体系処理(秋から翌年処理)で、高い効果が認められました

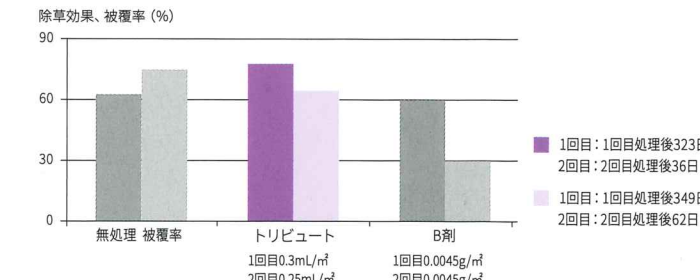
スズメノカタビラ防除における上手な使い方



- 葉齢が進んだ大型のスズメノカタビラには高薬量(0.2~0.25mL/m²)を推奨します

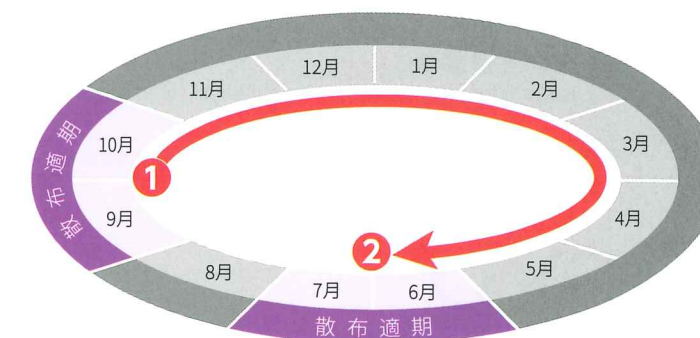
チガヤに対する効果 (秋から翌年の体系処理)

試験場所: 関東Aゴルフ場
芝種: コウライシバ
プロット: 1m²
処理日: 2013年9月12日および2014年6月26日
調査日: 2014年8月1日 (1回目処理後323日、2回目処理後36日)、8月27日 (1回目処理後349日、2回目処理後62日)
散布水量: 100mL/m² (サーファクタント2000倍加用)



- トリビュート単剤の場合、秋から翌年6月の処理で、対照B剤より高い効果が見られました

スズメノヒエ類、チガヤ防除における上手な使い方



- 秋+翌年初夏の処理で効果がアップします ※一時的に日本芝に黄変など生じる場合があります



ベントグリーンから50ヤード以上離して使用してください